

鳥取県立美術館 ロゴ・シンボルマーク 候補作品一覧

記号

作品

デザインコンセプト（作者による）

A



Tottori Prefectural Museum of Art
鳥取県立美術館

みんながわくわくして楽しくなるように、
たくさんの線やカラフルな色をつかって、
きらきら輝いているように工夫しました。

B



『未完成なマーク』

鳥取（TOTTORI）の複数あるTを県民一人ひとりに見立て、そのTの集積によって美術館のシルエットを構成、県民が主体となる美術館を目指したデザインとなっている。
TとTの隙間は、建設後の活用こそが重要である事を、隙間を埋めていく＝皆で大切に作り上げていこう、というメッセージになっており、参加しやすい「開かれた場」である事も表している。
『未完成なマーク』から『思いのこもった美術館』完成を目指して。

C



シンボルマークは、美術館完成予想図の特徴的な屋根の大きなひさしと正面に開けたガラス面をオマージュし、美術館の外観をシンボライズした。青い屋根とひさしは、未来へはばたく鳥の羽をイメージし、中央の白抜きは、鳥取のイニシャルTと未来への入り口を表現した。ロゴデザインは、特に視認性に優れ、シンボルマークとの調和を考えた。英語表記は、小文字で柔らかく親しみやすさを考慮した。

D



色とりどりの正方形のパズルを散りばめて子供たちが遊んでいる様子を表現して子供たちが楽しめる空間になるよう思いを込めた。また、字を白色にすることで、パズルを強調した。

E



シンボルマークは、

青空と大御堂廃寺跡、美術館で構成されています。
美術館のシルエットは、鳥取の頭文字「T」を表します。
青空の下、大御堂廃寺跡は人々の集う場を、
美術館の白色は、未来や活動が描かれる場を表します。
また、一定のルールに基づき、シンボルマークは縦横へ伸縮可能な設定とします。
一人ひとりが想像し、可能性を生み出す。
それこそが、未来をつくる美術館に相応しいと考えます。

F



鳥取の「鳥」を全体のモチーフに制作しました。「鳥」の上部が横に長いのは、貴館の建物を模しています。その下にある2つの波は、砂丘、風紋を主に表していますが、鳥取県と面している日本海の波、緑豊かな山も含めております。そうした自然の土壌で鳥取はできており、縁の下にあることを落とし込みました。波打つことで人々の熱量も盛り上がりげらばと思います。

（全6点・順不同／手描きの作品など必要に応じて作者の了解を得てデザイン調整を施しています。採用後に実用化を踏まえて再度調整を行う場合があります。）